

第15回 東北大脑科学GCOE 若手フォーラム

生命科学研究所 生命機能科学専攻 脳情報処理分野 (飯島研)

発表者・発表内容 (研究内容紹介)

大原 慎也『ウイルスベクターを用いた神経回路の標識について』
清水 章『嗅上皮付き単離脳標本を用いた嗅覚情報表現について』
山田 宗和『前頭連合野における帰納的推論について』

医学系研究科 障害科学専攻 高次機能障害学分野 (森研)

発表者・発表内容 (研究内容紹介)

澤田 陽一『パーキンソン病における注意のセット転換障害と
その神経基盤』

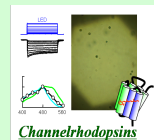
【要旨】 錐体外路系の運動機能障害を主症状とする変性疾患であるパーキンソン病 (PD) 患者に対し
安静時脳ブドウ糖代謝とセット転換を必要とする課題の反応時間との相関領域の検討を行い、
PD患者のセット転換障害の神経基盤を推定した研究を紹介する。

生命科学研究所 生命機能科学専攻 脳機能解析分野 (八尾研)

発表者・発表内容 (研究内容紹介)

王 紅霞 (Hongxia Wang)『Molecular determinant differentiating photocurrent
properties of two channelrhodopsins from chlamydomonas』

【要旨】 To identify the critical structure regulating these photocurrent properties, we created
a series of chimeras by progressively replacing the N terminal segment of ChR2 with the
counterpart of ChR1 and expressed them in HEK293 cells. We found that the 5th segment
containing the 5th helix of ChR2 replaced with homologous one of ChR1 significantly
changed wavelength sensitivity and photocurrent kinetics.



医学系研究科 神経・感覚器病態学講座 精神・神経生物学分野 (曾良研)

発表者・発表内容 (研究内容紹介)

有銘 預世布『精神疾患モデルマウスを用いた認知機能改善作用の検討』

【要旨】 統合失調症などの精神疾患では認知機能障害が非常に重要な問題となっています。
私は精神疾患のある側面を反映したモデルマウスを用いることにより、その病態と治療法の
開発を目指して研究しています。今回は候補薬の作用機序を脳部位、神経回路、伝達物質の
観点から検討したものを報告します。

2009年5月29日 (金)
セミナー：15時30分～
懇親会：18時00分～
@医学部5号館2階 201

